

平成26年度自己評価書

学校名 和歌山市立中之島小学校

校長名 裕間 正子

作成日 平成27年3月3日

1 教育目標

豊かな心と学ぶ意欲をもちたくましく生きる子どもの育成

・確かな学力に向けた取組の充実 ・仲良く楽しく生活できる元気な学校の実現 ・どの子どもも楽しめる体育学習の推進

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力	体づくり
重点目標 P	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の人材や保護者を進んで活用する。 ○情報を家庭・地域に積極的に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな体験活動・交流の充実を図る。 ○すべての教育活動を通して道徳教育を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業改善を進め、国語力の向上を図る。 ○基礎学力向上の取組を積極的に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自発的、主体的に取り組む体育科学習を進める。 ○基本的生活習慣の定着を図る。
取組の状況 D	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・学年・学級・保健だより等を保護者・地域に出し、学校の教育活動や保護者・地域への協力依頼等を積極的に知らせる。 ・ホームページの更新を増やし、内容の充実を図る。 ・図書・英語等の学校ボランティアを教育活動に積極的に活用する。 ・ふれあい給食や中之島作品展・運動会・授業参観等で地域の方との交流を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間では、「心のノート」等の資料を効果的に活用し、指導を充実させる。 ・毎日のあいさつ運動や読書タイム等様々な場で、心を豊かにする取組を実施する。 ・幼小連携教育による園児との交流を積極的に行う。 ・地域の方や保護者ボランティアとの交流や、縦割り活動等による子ども同士の交流を活発にする。 ・自尊感情の育成に向け、成功体験を増やすような活動を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決学習・調べ学習・体験学習等を積極的に進め、「伝え合う授業」に繋ぐ。 ・「伝え合う授業」を通して、言語力・コミュニケーション力の育成を図る。 ・毎朝の「読書タイム」や「うち読」を通して学校と家庭が連携しながら「自ら本に手を伸ばす子ども」を育てる。 ・「中之島タイム」・授業・宿題での漢字・計算等は個別指導を取り入れながら基礎基本の定着を図るとともに学年に応じた学習内容の確かな習熟を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいて、子どもが進んで楽しく取り組む体育科学習を実践し、その成果を教科等別研修会で発表する。 ・「きのくにチャレンジランキング」に参加するほか、体力づくりに取り組む。 ・生活調べやアンケートより、子どもの生活実態をとらえ、学校と家庭が連携して基本的生活習慣定着に向けて努力する。 ・食育を推進し、逞しい体づくりの一助とする。
取組の成果と課題 (評価結果) C	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの「学校は様子をわかりやすく伝えている」について、肯定的な評価が86%である。 ・児童は学校ボランティア(英語・図書・昔遊び等)との交流を喜び、積極的に参加している。 ・地域の方からは、交流を通して、子ども達や学校の様子がわかって、よかったとお話をいただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの「仲良く助け合う子の育成」が77%、「一人ひとりが大切にされ認められる学校」が71%と低くなっている。来年度は80%を超える評価が得られるよう取組を行いたい。 ・たてわり活動、交流は児童が進んで取り組み、笑顔で楽しい時間となっている。事前事後の職員の話し合いも丁寧に行い、次回の活動に生かしている。 ・交流等の体験活動を大切に、認めることを基本に自尊感情の育成に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度全国学力テストでは本校の6年生は国語・算数ともにA(知識)では県平均よりやや高い状況にある。B(活用)はより高く、国語+4.4算数+5.3ポイントであった。 ・児童アンケートから毎日の勉強が「分かる」が82%、また、保護者アンケートでは「基礎学力が身につけている」が81%となっている。児童の意識は少し向上したものの、まだまだ基礎的な学力定着の努力が必要である。 ・学習規律や学習方法など学びの基本を身につけさせる取組が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等別研修会では、2授業を提案し、参加者は約120名で、協議会では熱心に討議をしていただいた。本校体育研究の評価・改善のよい機会となった。 ・体育には積極的に取り組み、体づくりは進んでいる。きのくにチャレンジランキングにも一層積極的に取り組む必要がある。 ・毎学期実施の生活調べには進んで取り組み、意識は高まっている。一方、保護者アンケートの「早寝早起き朝ご飯」は、86%で昨年よりも5ポイント高くなっている。
改善方法 A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・学年・学級・保健だより・ホームページ等の情報発信のさらなる充実を図る。 ・地域や保護者のボランティアを積極的に招く。 ・学校行事には保護者、地域の方を積極的に招き、交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教育課程において、子ども一人ひとりを生かす取組を行う。 ・あいさつ運動を積極的に継続して行う。 ・交流活動(幼稚園・保育所等)・たてわり活動をさらに充実させる。交流はやりっ放しにせず、事後の評価・改善のための話し合いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことを大切にした「伝え合う授業」を推進し、国語力(言語力やコミュニケーション力等)の向上を図る。 ・「中之島タイム」の充実を図り、漢字・計算等基礎学力の確実な習得を目指す。 ・学力向上に向け、個に応じた指導の研修を積極的に行い、教師の指導力向上・授業改善をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科学習の研究を深化させ、楽しい体育での子どもの体力向上をさらに進める。 ・保護者への啓発を進め、基本的生活習慣の定着をめざす。 ・食育を推進し、子どもの体位・体力の向上を図る。

3 その他の課題

年々、特別支援を必要とする児童が多くなっている。今後、担任だけでなく、組織としての取組が求められる。現在の生活状況や生育環境を把握しての指導、また、深い児童理解に基づき、一人ひとりを温かく励まし、自信と自尊感情を育む支援が必要である。また、関係機関と連携をとりながら、保護者へのサポートも行っていかなければならない。